



観光客1000万人時代の インフラ整備

沖縄総合事務局 次長 尾澤 卓思

1. 沖縄における観光客1000万人時代のインフラ整備

- ①政策提言
- ②具体的な活動
- ③6つの分野のシナリオ

2. 沖縄観光インフラカードの発行

- ①情報インフラによる観光振興

参考

公表している
資料・冊子



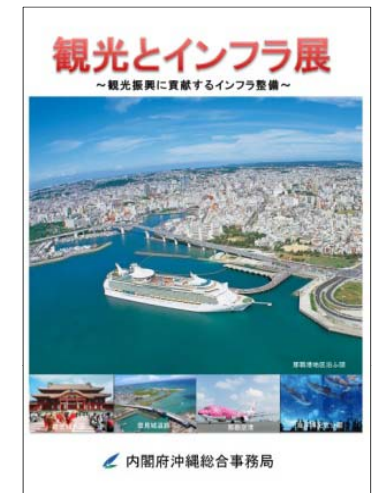
月刊「土木施工(2014.11月号)」
沖縄における観光客1000万人時代のインフラ整備について約160ページで特集。



「観光客1000万人時代のインフラ整備」

「沖縄における観光客1000万人時代のインフラ整備」についてHPで公表、冊子に取りまとめて配付。

<http://www.dc.ogb.go.jp/kaiken/012480.html>



「観光とインフラ展」

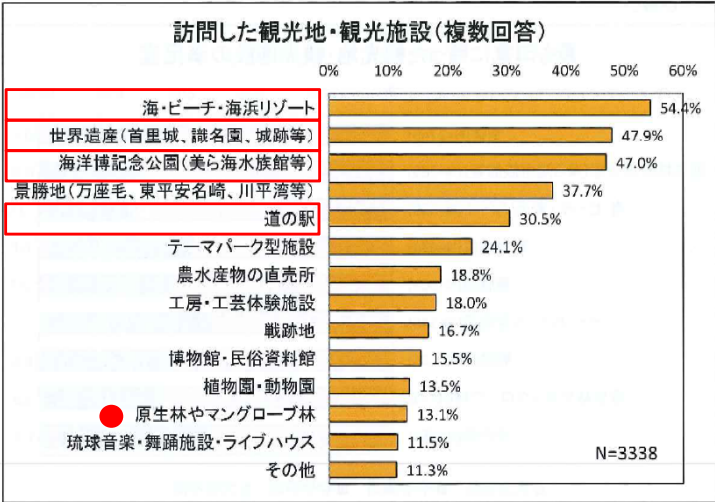
「沖縄における観光客1000万人時代のインフラ整備」について、一般の人に広くわかりやすく伝えるために、これらのパネルを、冊子に取りまとめて配付。

- 沖縄県では、観光を県経済のリーディング産業と位置付け、平成33年度入域観光客数1000万人を目標。
- 沖縄観光の満足度に関する調査によると、旅行中に訪問した観光地・観光施設において、首里城などインフラが上位。
- 沖縄の観光を支えているのは「インフラ整備」である。

沖縄県観光振興基本計画（第5次）（平成24年度～平成33年度）

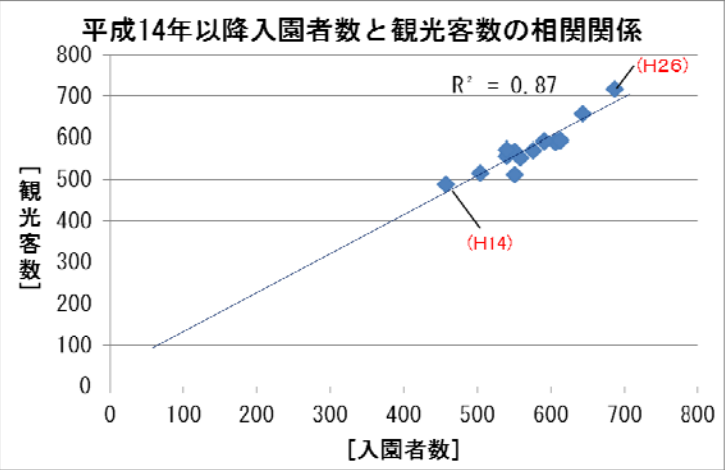
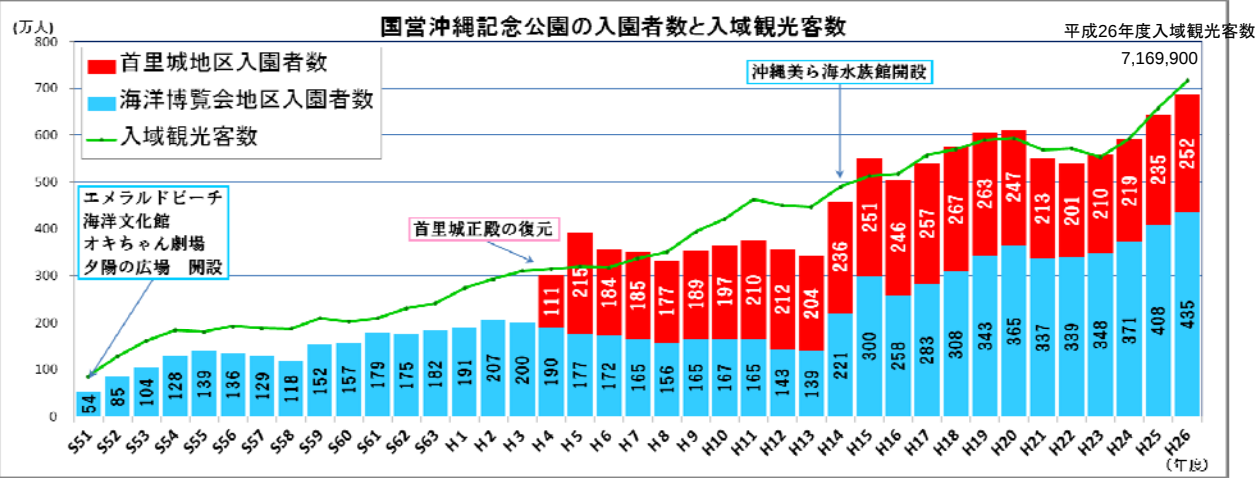
【平成33年度 達成目標】

- 1. 観光収入 1兆円
- 2. 観光客一人当たり県内消費額 10万円
- 3. 平均滞在日数 5日
- 4. 人泊数 4,027万人
- 5. **入域観光客数 1,000万人**（国内客800万人・外国客200万人）



出典：沖縄観光の満足度（平成24年度 観光統計実態調査（沖縄県））

【国営沖縄記念公園入園者と沖縄県観光客数の推移】



沖縄における観光客1000万人時代のインフラ整備

- 沖縄観光振興に貢献するインフラ整備を明らかにし、6つの分野でシナリオを作成し、政策提言を実施。
- 各事業の縦割りの展開を観光の観点から横串を刺した形で整理。
- 観光振興の目的・目標に対し、インフラの総合力の重要性をわかりやすく提示。
- 観光とインフラの融合という新たな視点でのインフラ整備を推進。
- 観光客のみならず県民にとって便利で質の高いインフラ整備を実現。

6つの分野のシナリオ

1. 観光資源の整備
(インフラは観光資源)
2. 観光地等の地域支援
(沖縄らしい魅力のある地域づくり)
3. 交通網の整備
(交通拠点とネットワークの構築)
4. 情報発信の拡充
(交流拠点からの発信)
5. 環境保全・再生
(保全・再生技術の蓄積と活用)
6. 防災・危機管理
(迅速かつ適切な初動対応の確立)

具体的な活動

1. 6つの分野のシナリオを作成・公表
(政策提言)
2. 講演・シンポジウムの開催
(経済界や土木学会等)
3. パネル「観光とインフラ展」の開催
(ショッピングセンターやイベント会場等)
4. 沖縄観光インフラカードの発行
(観光とインフラの融合)
5. 有識者等へのインタビューの新聞掲載
(専門紙で連載)
6. 新たな施策の検討
(将来展望)

①観光資源の整備

- 沖縄中南部は、港湾事業などによる人工ビーチが多い。
- 離島架橋は、交通の利便性向上のみならず美しい景観から観光拠点となる。
- ダムは、治水や利水のみならず施設やダム湖を活かした観光拠点を形成。6ダムで「沖縄北部ダムツーリズム」を推進。
- 国営沖縄記念公園は、年間687万人と沖縄観光の中心的存在。

人工ビーチ 位置図

※1埋立地造成は国、砂浜部分は県・市の事業で整備
※2砂浜部分は他事業で整備

平良港
トウリバー地区
「サンセットビーチ」※1

石垣港
新港地区「人工ビーチ」※1

離島架橋 位置図

● 道路整備事業
● 鉄道整備事業

沖縄北部ダムツーリズム

安波ダム

亜熱帯ジャングルカヌー(安波ダム)

国営沖縄記念公園

沖縄美ら海水族館

首里城

②沖縄らしい魅力のある地域づくり

- インフラ整備により沖縄らしい風景を実現し観光客や地域にも質の高いインフラを提供。
- 沖縄の歴史、風土、環境、景観に配慮した魅力のある官庁施設等の整備。



■沖縄らしい形態の表現



長大な庇が深い影をつくる「雨端」



格子状や網代状に竹を組んだ「チニブ」



景観づくり



古都・首里の城下町にふさわしい沿道(龍潭線(県道29号線))景観づくり

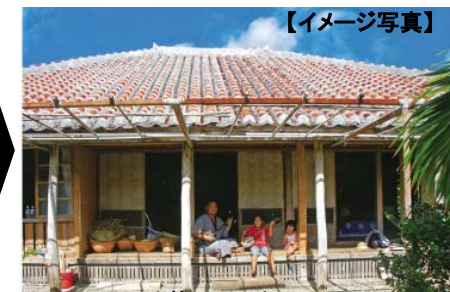
電線の地中化



那覇市(一般国道58号)

電線を地中化により安全で快適な通行空間の確保、都市災害の防止、景観の向上等

空家の再生



空き家の古民家

空き家の古民家を交流・展示施設や体験宿泊施設等に改築

【イメージ写真】

改築して再生活用

③交通網の整備

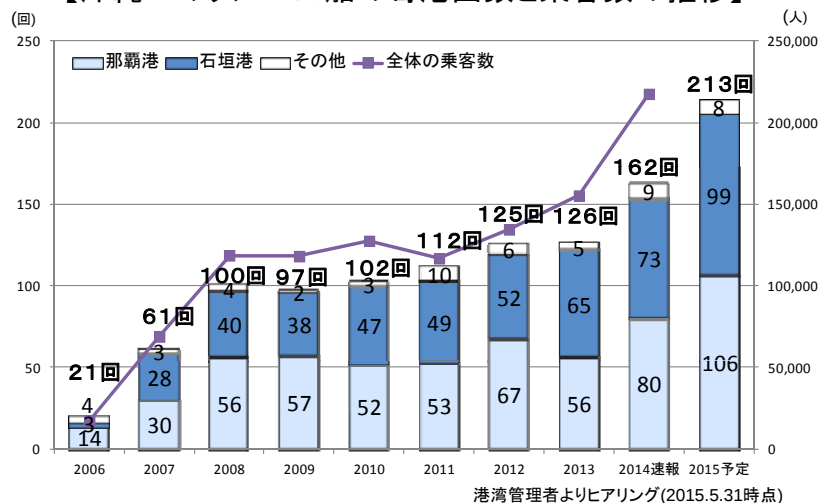
- 沖縄へのクルーズ船の寄港回数と乗客数は年々増加。那覇港、石垣港において、増加するクルーズ需要やクルーズ船の大型化への対応が重要。(複数のクルーズ船バースが必要)
- 航空需要の増加により、滑走路増設に着手、平成32年度供用開始を目指す。2本の滑走路により、トラブル発生時も運航が可能。(リスク回避)

港湾整備

那覇港旅客船バース

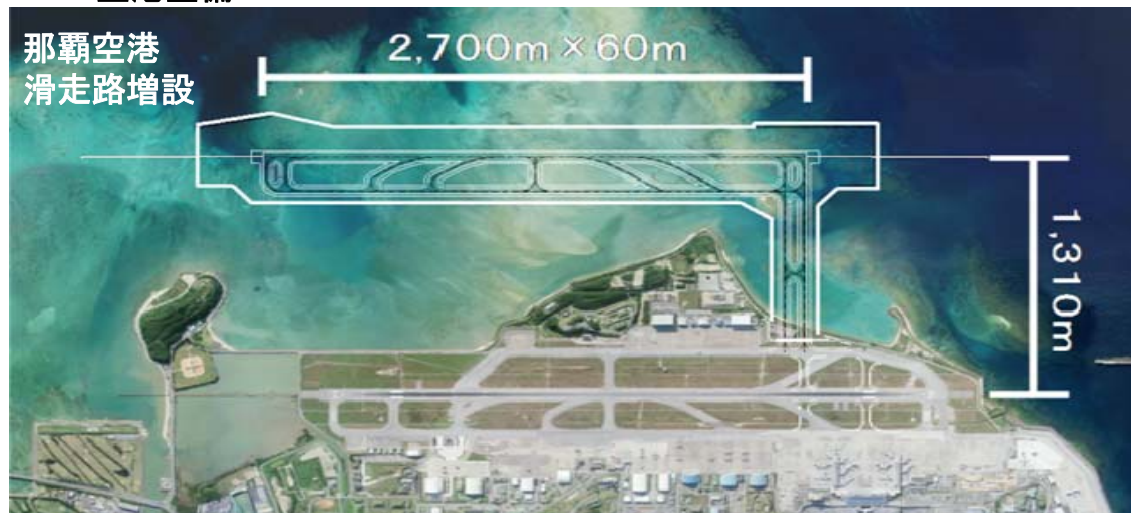


【沖縄へのクルーズ船の寄港回数と乗客数の推移】

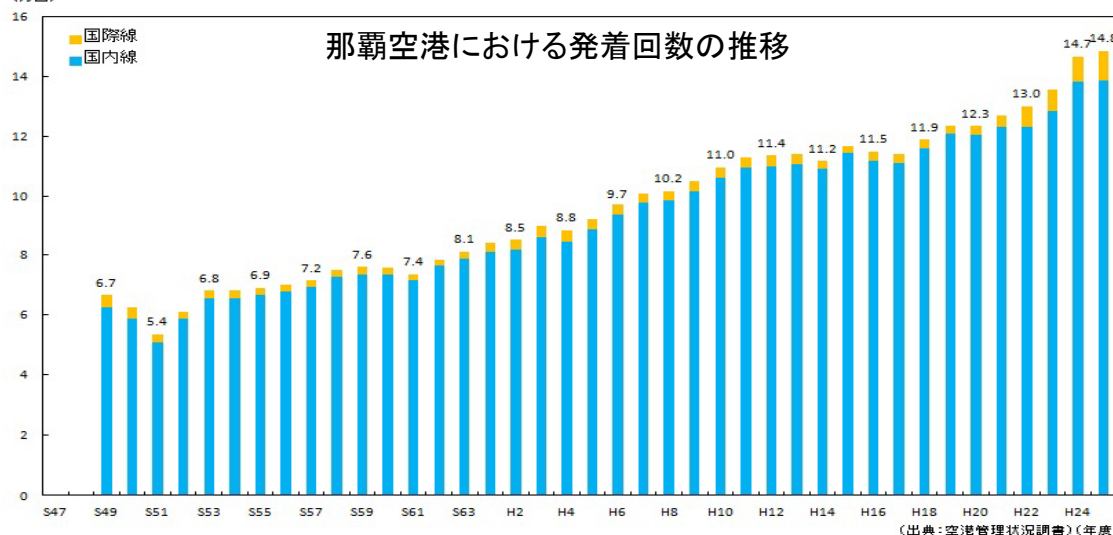


空港整備

那覇空港 滑走路増設



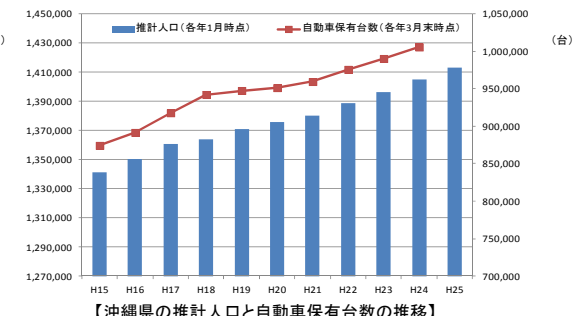
(万回)



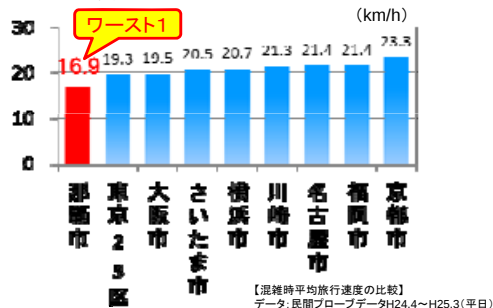
③交通網の整備

- 那覇都市圏に2環状と放射道路を整備し、日本での渋滞ワースト1位から脱却。
- 本島の南部、北部を3本柱のハシゴ構造の道路で結び、円滑な交通移動を実現。

●沖縄県の人口増加に伴い、自動車保有台数も増加



●那覇市内の速度は全国ワースト1



『2環状と放射道路』の整備

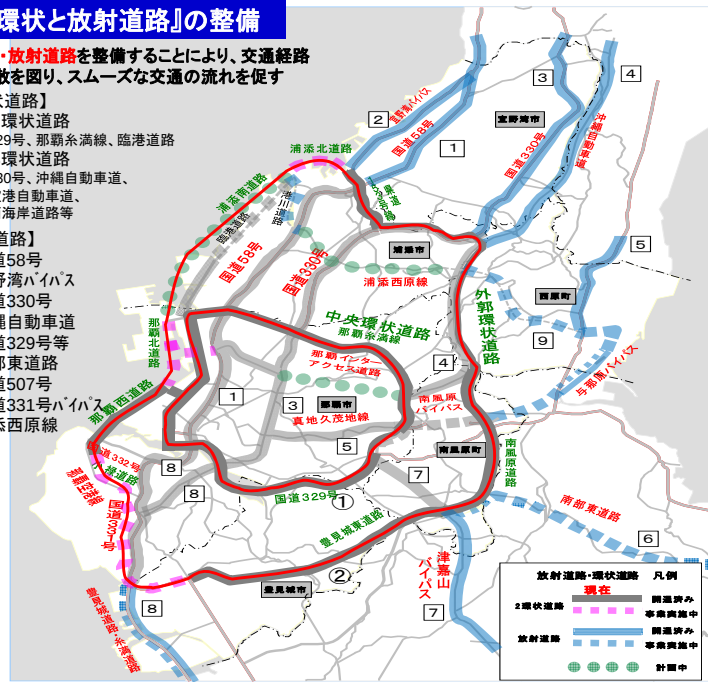
■環状・放射道路を整備することにより、交通経路の分散を図り、スムーズな交通の流れを促す

【2環状道路】

- ①中央環状道路
国道329号、那覇糸満線、臨港道路
- ②外郭環状道路
国道330号、沖縄自動車道、那覇空港自動車道、沖縄西海岸道路等

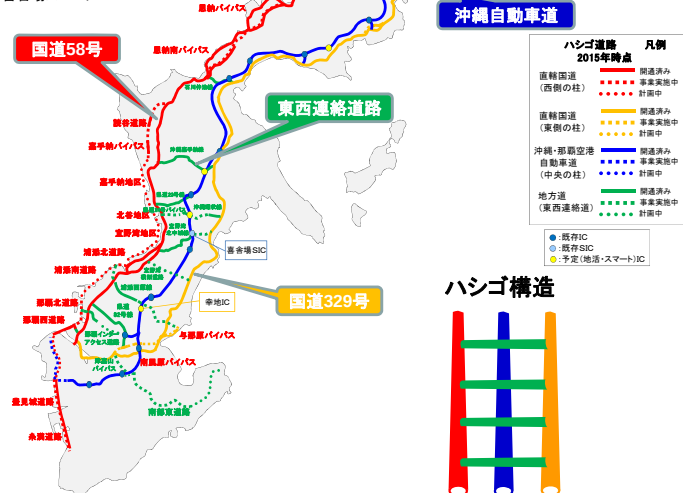
【放射道路】

- ① 国道58号
- ② 宜野湾バイパス
- ③ 国道330号
- ④ 沖縄自動車道
- ⑤ 国道329号等
- ⑥ 南部東道路
- ⑦ 国道507号
- ⑧ 国道331号バイパス
- ⑨ 浦添西原線



『ハシゴ道路ネットワーク』の整備

- 南北を走る強固な「3本の柱」
国道58号、沖縄自動車道、国道329号
- 3本の柱を支える「東西連絡道路」
沖縄嘉手納線、宜野湾北中城線、浦添西原線など
- 高速道路を使いやすくする「インターチェンジ」
喜舎場スマートIC



那覇都市圏における外郭環状道路の機能強化



④情報発信の拡充

○「道の駅」は、「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域の連携機能」の3つの機能を併せ持つ施設。
まちの特産物や観光資源を活かし、「ひとを呼び、地域にしごとを生み出す」核へと進化。

○観光客を含め一般の方に、観光に貢献するインフラ整備について、理解してもらうため、インフラ施設を対象とした「沖縄観光インフラカード」を作成し、手渡しで配付。ソフトインフラにより観光振興に貢献。

道の駅

・進化する道の駅

域外から活力を呼ぶゲートウェイ型
地域の元気を創る地域センター型

【ゲートウェイ型】

【地域センター型】



地域の観光窓口



近隣の漁港でとれた新鮮な魚を販売



地域工芸(染め織物)の体験



災害時の避難階段

沖縄観光インフラカード

・現在、16施設で発行、今後も対象施設を追加していく予定。

【沖縄北部ダムツーリズム】

【開通記念】

福地ダム

安波ダム

漢那ダム

豊見城東道路



【道の駅】

許田

おおぎみ

ゆいゆい国頭

かでな



喜名番所

豊崎

いとまん

ぎのざ



【国営沖縄記念公園】

沖縄美ら海水族館

首里城

海洋文化館

熱帯ドリームセンター



⑤環境保全・再生

○沖縄は日本唯一の亜熱帯性気候で、海域はサンゴ礁などの特異な環境であり、こうした環境と共生する港湾整備を目指した取り組みを進めている。

○北部の水源地‘やんばる’は、絶滅危惧種に指定されるノグチゲラ等の沖縄固有の貴重種が生息するなど、豊かな自然環境が残された貴重な環境。このため、整備にあたり、これら自然環境への配慮を行うとともに、環境の復元・創出等に努めている。

消波ブロックの加工(那覇港)



サンゴの移植(石垣港)



人工営巣木(大保ダム)



森林がノグチゲラによる営巣可能な状態に回復するまでの「緊急避難的な措置」として「人工営巣木」を設置。



設置8年後

防波堤の消波ブロックに凸凹加工を施し、サンゴの加入・着生を促進。



航路浚渫に伴うサンゴ移設と環境省が取り組むサンゴ群集の修復を連携して実施。

ビオトープ(漢那ダム)



第二貯水池を活用し、ビオトープを整備。水鳥やトンボなどの水生昆虫類の貴重な生息生域となっている。

⑥防災・危機管理

- 大規模自然災害が発生した場合において、国土交通省の技術職員TEC－FORCEを被災地に派遣。
- 大規模な地震・津波災害の発生に備えて、関係機関による沖縄防災連絡会を設立。島内の限られた資源のみの初動対応を想定し、連携・協力した迅速・的確な対策を確立。
- 被災直後から先行的に国の職員を派遣し、自治体の支援を実施。沖縄総合事務局では全41市町村とリエゾン協定を締結。

国土交通省緊急災害対策派遣隊(TEC－FORCE)

大規模自然災害が発生した場合において、国土交通省の技術職員TEC－FORCEを被災地に派遣。
被災地地方公共団体等が行う災害応急対策に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に実施。

事例：広島市で発生した土砂災害に対する支援を実施するため、8月20日に中国地方整備局のほか全国の地方整備局（北陸・中部・四国・九州）らTEC－FORCE(緊急災害対策派遣隊)14班57名を派遣。



家屋の土砂災害の被害様子



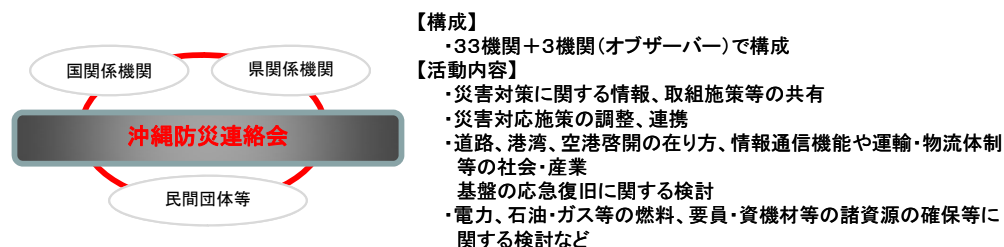
自衛隊・消防・警察と捜索活動の打ち合わせ 8月24日



安佐南区八木町の被害状況調査8月21日

沖縄防災連絡会(平成24年11月12日設立)

沖縄地域における大規模な地震(M9.0)・津波災害の発生に備えて、予め関係機関が対応策を検討。
発災直後は、島内の限られた資源のみの災害対応を想定し、連携・協力した迅速・的確な初動対応の実施。
初動体制の「中間とりまとめ」を平成26年7月に行い、平成27年度中には報告書を取りまとめる予定。



災害時の情報交換及び応援(リエゾン)

被災直後から先行的に国の職員を派遣し、被災状況や被災自治体の支援ニーズを把握し、被災地方整備局等の災害対策本部に伝達するほか、自治体の支援を実施。沖縄総合事務局では全41市町村とリエゾン協定を締結。



①自治体ヘリエゾンを派遣



②災害対策用資機材の派遣



③共同での防災訓練を実施

「沖縄観光客1000万人時代のインフラ整備」について有識者100人に聞く



沖縄総合事務局
内閣府

○各界の有識者から聞く「観光客1000万人時代のインフラ整備を100人に聞く」を企画しており、様々な意見を
受けて、新たな提案に結びつけていく予定。

○現在、46人にインタビューを実施し、これまで24名を沖縄建設新聞に連載中。

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案①

世界に通用するインフラ必要
ウチナービケン整備を

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー
会長 上原 良幸氏

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案②

バースの大型化必要
クルーズ船は経済効果高い

第1下地事務所
代表取締役社長 宮島 龍一氏

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案③

「リゾート力」必要
滞在日数延ばす仕掛けを

沖縄観光局
局長 上地 英由氏

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案④

海・空路の整備を
回遊できる諸島リゾートへ

琉球大学
教授 池田 通氏

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案⑤

ITで発信と交流
公共交通は戦略的な整備を

三井物産
代表取締役 木村 博氏

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案⑥

国際競争力視野に
めりはりある面的開発を

琉球大学
教授 小堀 淳氏

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案⑦

インフラが観光振興に直結
観光客・観光客のインフラ

沖縄建設新聞
社長 尾澤 卓思氏

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案⑧

自然守り美しいまちを
英語表記や英会話に挑戦して

琉球大学
教授 尾澤 卓思氏

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案⑨

歩いて楽しい道を
健康志向の旅が人気に

琉球大学
教授 尾澤 卓思氏

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案⑩

日本の玄関目指せ
来訪者目線の施策必要

琉球大学
教授 尾澤 卓思氏

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案⑪

「沖縄発」の戦略を
九州含めた広域のツアーも

琉球大学
教授 尾澤 卓思氏

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案⑫

健康の視点が重要
トラムの導入で歩く社会へ

琉球大学
教授 尾澤 卓思氏

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案⑬

言語も観光インフラ
「英語タウン」で県内留学を

琉球大学
教授 尾澤 卓思氏

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案⑭

開発は最小限で
自然は重要な観光インフラ

琉球大学
教授 尾澤 卓思氏

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案⑮

インフラのPRを
工事内容や完成図示して

琉球大学
教授 尾澤 卓思氏

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案⑯

観光案内の拠点を
店舗や見所の最新情報発信

琉球大学
教授 尾澤 卓思氏

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案⑰

景観に花や緑を
沖縄らしさを雲間気出す

琉球大学
教授 尾澤 卓思氏

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案⑱

空間の魅力が鍵
ソフトを含めた全体で整備を

琉球大学
教授 尾澤 卓思氏

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案⑲

世界水準ビジョンを
ソフトも人材育成も必要

琉球大学
教授 尾澤 卓思氏

観光客1000万人時代に
向けて
私の提案⑳

路面電車でゆったり旅
住みよい空間を観光インフラ

琉球大学
教授 尾澤 卓思氏

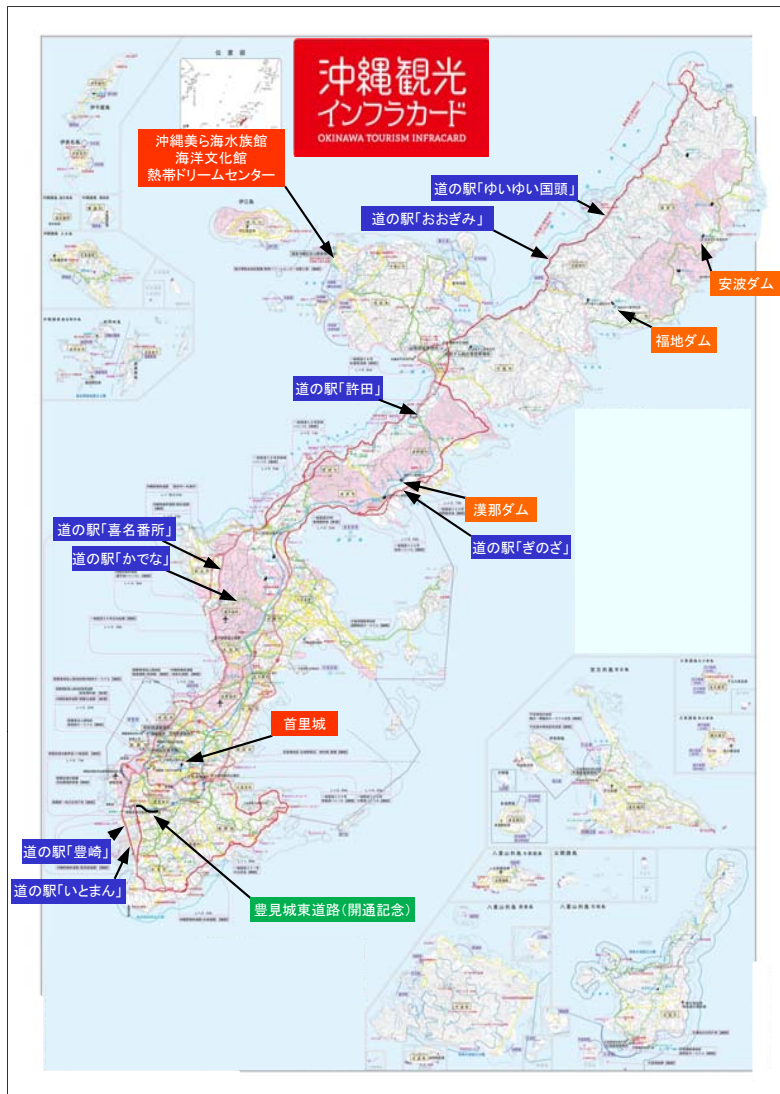
観光客1000万人時代に
向けて
私の提案㉑

ダムや橋も観光資源に
スピード感もって整備を

琉球大学
教授 尾澤 卓思氏

沖縄観光インフラカード

- 観光客を含め一般の方に、観光に貢献するインフラについて、広く容易に理解してもらうため、インフラ施設を対象とした「沖縄観光インフラカード」を作成。
- 「沖縄観光インフラカード」は、収集を楽しみながら、観光とインフラの関係を理解することができるとともに、観光の満足度の向上や誘客につながることを期待される。
- 観光振興に貢献する情報インフラ。



【沖縄北部ダムツーリズム】

福地ダム



安波ダム



漢那ダム



【道の駅】

許田



おおぎみ



ゆいゆい国頭



かでな



喜名番所



豊崎



いとまん



ぎのざ



【国営沖縄記念公園】

沖縄美ら海水族館



首里城



海洋文化館



熱帯ドリームセンター



【開通記念】

豊見城東道路



沖縄観光インフラカードの特徴 —デザイン—

- カードは、統一したデザインと仕様で作成し、カードの表側が写真、裏側を説明。
- デザイン面では、3つの特徴を有している。(1)斬新なデザインのシンボルマーク、(2)セピア調のアンティーク感を持った写真、(3)背景の色は施設のシリーズがわかるように区分。
- デザイン及びシンボルマークは、東京学芸大学の吉富准教授、正木准教授と学生によるチームに依頼。

沖縄観光インフラカード例

沖縄北部ダムツーリズム「安波ダム」
88mm



(1) 斬新なデザインのシンボルマーク



このシンボルマークは、【見】という漢字が造形的モチーフになっています。「沖縄県の県章」を象った【目】にあたる部分は、新たな「観光」の可能性を展望するものであると同時に、それを支える【足】の部分が、新たな観光スポットとして注目される「インフラ」および観光を支える「インフラ」を象徴しています。また、こうした「観光地」を巡り、沖縄の魅力をたくさん「発見」しながら旅を満喫する観光客たちの姿を

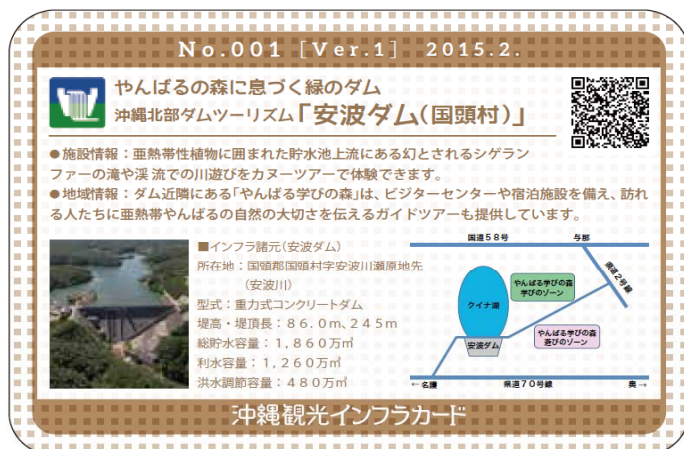
表現したものであります。スタンプ風に仕立てたこのマークを今回の「沖縄観光インフラカード」に施すことで、それらを集める喜びや楽しさを演出するとともに、沖縄を訪れた人々の素敵な思い出の証となるようデザインしました。「沖縄観光インフラカード」は、各インフラ施設において統一したデザインと仕様で作成し、デザイン及びシンボルマークは、東京学芸大学の吉富准教授、正木准教授と学生のチームに依頼しました。

(2) セピア調のアンティーク感を持った写真

旅の思い出として、時間の観念を入れ、思い出風にセピア調にしている。また、セピア調により、格調高く仕上がっている。

(3) 背景の色は施設のシリーズがわかるように区分

ダムツーリズムはオレンジ、道の駅は青、公園は赤と施設のシリーズ毎に色を決めた。



沖縄観光インフラカードの特徴 – SNSの活用 –

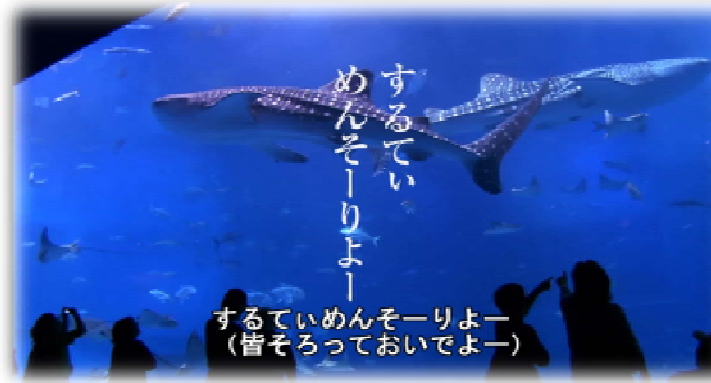
○沖縄北部ダムツーリズムの安波ダム及び国営沖縄記念公園の沖縄美ら海水族館、首里城、海洋文化館、熱帯ドリームセンターのカードでは、裏面に記載されているQRコードより、動画を見ることができる。

安波ダム
「シゲランファアの滝」



ダム湖面からしか見られない幻とされる「シゲランファアの滝」が動画で見ることができます。

沖縄美ら海水族館



黒潮水槽の中でゆうゆうと泳ぐジンベエザメと一緒にいるような動画と沖縄の方言をお楽しみ頂けます。

首里城



首里城公園「新春の宴」の厳かな儀式の様子を動画で見ることができます。

海洋文化館



広大な海を越えた人々の歴史と文化を伝える展示品を動画で見ることができます。

熱帯ドリームセンター



熱帯ドリームセンターで咲き誇るランの花々や南国の植物を動画で見ることができます。

沖縄観光カード(仮称)の提案【JALの場合のイメージ】

- カードの発行が観光振興に貢献することから、観光施設や観光関連産業などにおいても同様の「沖縄観光カード(仮称)」の発行により同様な効果が見込まれる。
- 基本的な規格やデザインを合わせた姉妹カードの発行により、観光客の満足度の向上や観光PR効果、誘客効果などの相乗効果も見込まれる。
- 沖縄における観光のネットワークを形成する。

表面例

イメージ

施設等の写真

名称

沖縄観光インフラカード
シンボルマーク

名称(英語表記)

登録番号、バージョン番号
、発行年月

裏面例

企業名、表面の説明
キャッチフレーズなど

QRコード

企業名や施設情報
など自由記載

イメージ



シンボルマーク



「沖縄県の県章」を象った【目】と沖縄観光を満喫する「ツーリスト」の姿を表した【人】で構成した【観(見)】という漢字が、このシンボルマークの造形的モチーフです。左右にも【人】を配置することで、沖縄全土にわたり多くの観光客が訪れる様を象徴しています。また、【光】という漢字を連想させる表現は、「食う、寝る、遊ぶ」の豊かな観光資源の「輝き」を表すとともに、沖縄の新たな魅力の「発見」を意味しています。「沖縄観光インフラカード」との連動を図るために、スタンプ風のデザインを踏襲しました。カードを集める喜びや楽しさを演出し、沖縄を訪れた人々の素敵な思い出の証しとなることがねらいです。

なぜカードの活用なのか

- カードの優位性を分析
- カードの実績、話題性、マニアの存在に着目
- アナログのカードとデジタルのSNSの組み合わせの活用
- カードホルダーなど付属品の導入による効果
- 観光とインフラの姉妹カードの発行による相乗効果



- ・カードとSNSという情報インフラの活用
シナリオ「情報発信の充実」の一環
- ・観光ネットワークの形成
- ・観光とインフラの融合を実感
インフラにもエンターテインメントの要素

カードの優位性

- ・写真や図によるわかりやすい表現
- ・小さな紙面に簡潔な内容
- ・集める楽しみの付加(コレクション)
- ・作成が安価(約20円/枚)
- ・作成の容易性(規格品の用紙に印刷)
- ・対象世代が広い
- ・ゲーム性の要素を有する

SNSやホルダーの活用

- ・QRコードやアプリ開発により、SNSとの組み合わせが可能となり、パフォーマンスの充実
- ・カードホルダーの導入により、ネットワークやストーリーが作成できる(コレクションの性格が明確化)

実績、話題性

- ・カードは、プロ野球、漫画の仮面ライダー、ポケットモンスターなど国民的な流行の実績あり
- ・流行とともに話題性が大きい(マスコミやインターネット等に掲載)
- ・ダムカードにもマニアが存在

観光カードとの相乗効果

- ・観光ネットワークの形成
- ・コレクションの形成が容易
(コンパクトなエリアに対象施設が集積)
- ・集める中で観光とインフラの融合を実感
(観光とインフラの両方が自然に集まる)
- ・インセンティブの付与が可能

○工事中のインフラ施設においても、土木の魅力を広く知ってもらうため、工事の特徴や土木の技術などを紹介する工事現場のカードを作成している。

○現場見学やパネル展など広く土木の魅力をPRする機会に活用。

工事現場の魅力を発信！

- 工事請負者による工事現場の紹介。
 - ・インフラカードを活用した、工事のPR
 - ・パネルによる現場案内
- 現場パネル展による土木の魅力を発信
 - ・各現場の説明用パネルを用いて「現場パネル展」を開催

【事例】

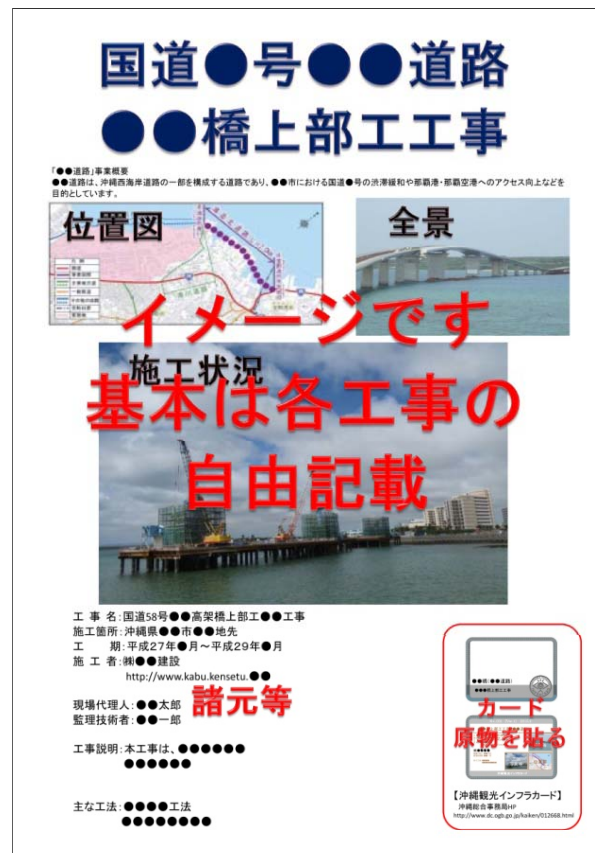
① ●●●道路●●●橋上部工工事

- ・工事紹介
- ・工種、作業工程 等

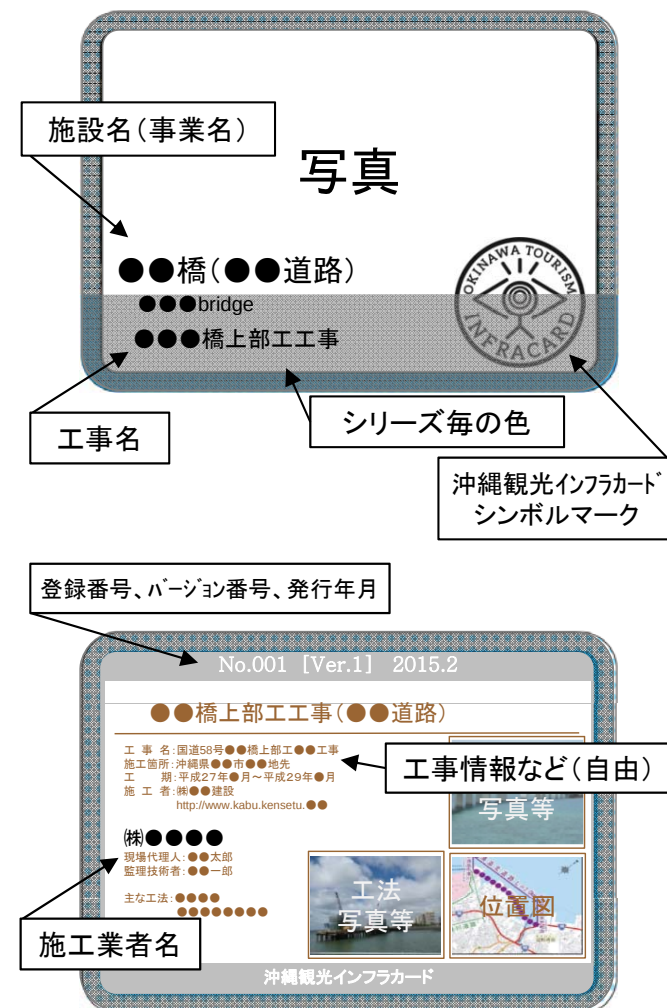
② ●●●道路●●●トンネル工事

- ・工事紹介
- ・トンネル掘削状況 等

パネルのイメージ



沖縄観光インフラカード



ご清聴有難うございました。

本日の講演内容は、沖縄総合事務局
開発建設部のホームページ
「観光とインフラ整備」で公表します。

開発建設部HP <http://www.dc.ogb.go.jp/kaiken/012480.html>